写真 1 南極半島アデレード島、山腹の氷河上の雪崩

写真 2 南極半島の開析隆起準平原

南極半島の氷河作用

Present Glaciation of the Antarctic Peninsula

南極半島は、かつてパーマー半島とかグレアムランドなどと呼ばれた。現在は北半をグレアムランド、南半をパーマーランド、全体を南極半島と称することになっている。南極主要部に比べれば、かなり北方に位置し、比較的气温は高く、降水量も多くて、いわゆる海洋性南極 (Maritime Antarctica) をなしている。とくに西海岸はこの傾向が著しい。氷から解放された露岩上の植生も、地衣や蘚苔、藻類のほか、南極大陸の他の場所ではみられない開花植物—ナンキョクコメススキ・ナンキョクミドリナデシコ—を加えてやや豊かであり、トビムシなどの動物の種類も多い。

新期造山帯に属するとされる土地は、褶曲した古生層～中生層、これに貫入した閃緑岩や花崗岩などが、急峻な地形をつくっている。やや温暖で湿潤な大気の流れによってもたらされる降雪は、この地域の氷河作用を著しく旺盛にしている。氷河のほぼ全域が涵養域となり、末端は海面で断ち切られている。夏期の海水がとくに西海岸では大変少なくなるのも、昭和基地周辺の頑強な流水帯や定着氷をみнаれた目には物珍しい。この海水の少なさが、海面付近での氷河の分裂を促進するのであろう。南極ではめったにみられぬ雪崩の跡が、いたるところでみられ、雪崩のデブリをのせた流水が漂う。海岸の低い段丘をつくる露岩も、一見して新鮮で、昭和基地や南ビクトリアランドの海岸とは風化度かなり異っていて、最近の地史の違いを反映するものとみられる。

写真 1 比較的小さい氷帽と山腹の氷河に覆われる南極半島地域のアデレード島。シュルンドや雪崩、末端の圧砕された下部の氷などが活潑な動きを示している。

写真 2 南極半島は隆起準平原が開析を受けたものといわれる。氷帽に覆われた半島北部の頂部は、遠望すると大変平坦である。

(1977年12月, 吉田栄夫撮影, Photo by Y. Yoshida)